

脳を知る

□464



小倉光博副院長

このコーナーでは、読者からのご意見、関心のあるテーマを募集しています。〒640-8154 和歌山市六番丁43(八)ビネス六番ビル 産経新聞和歌山支局(FA X073-435-3018)までお寄せください。

コロナ禍でいろいろなストレスが多い今日この頃、ストレスが体調不良を引き起こすこともあるので注意が必要です。このような環境では頭痛に悩む人も増えているのではないのでしょうか。前回の私のコラムでは、日本に4000万人いるといわれている頭痛患者のなかで、最も頻度の高い緊張型頭痛について解説しました。今回は2番目に頻度が高く、またもっとも有名な片頭痛についてお話しします。

知っておきたい 片頭痛の基礎知識



遺伝することがあると言われています。症状の特徴はズバリ、ズキンズキンと脈打つような激しい頭痛です。前回紹介した緊張型頭痛とは異なり、仕事

や学校を休むほど、つまり生活に支障が出るほどの強い痛みが起り、吐き気、嘔吐を伴います。しかし痛みは長時間続かず、多くの場合、眠って起きれば治っています。頭痛が起る前にチ

カチカとした光が見えたりする視覚異常が「前兆」として感じられることもあります。頭痛の間は光や音が不快で、布団にもぐって寝たいと言っている人が多いです。人によりですが、このような発作が平均月に2回程度あるようです。

このように片頭痛は、とてもつらい頭痛ですが、意外と病院に行かずに市販薬を飲んでいる人が多いです。市販薬で改善すればいいのですが、生活に支障があるのならきちんと病院を受診することをお勧めします。というのは、片頭痛であるかどうかの正しい診断が必要なので、適切な治療薬を服用することが大切だからです。片頭痛に対する鎮痛薬はその人の重症度に応じて選択する必要があり、また薬を多く飲み過ぎると、今度は鎮痛剤が原因の頭痛を引き起こすこともあります。また片頭痛の薬は痛くなった時に頓服で飲むのが基本ですが、あまりにも頭痛の頻度が多い場合は予防薬が有効なこともあります。予防薬にも種類があり、最近、飲み薬では十分に効かない片頭痛に対する注射薬も使えるようになりまし

た。あまりひどい頭痛で悩んでいる人は一度専門医を受診してください。
(済生会和歌山病院副院長 兼脳神経外科部長 小倉光博)